

## 外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/06

### オセアニアの金利先高観が強まるか注目

| 通貨ペア                           | 基調           |  | ページ数  |
|--------------------------------|--------------|--|-------|
| <a href="#">豪ドル/円</a>          | ➡            | RBA理事会での声明に注目<br>予想レンジ: 84.30 ~ 87.60 円    | 2 - 3 |
| <a href="#">NZドル/円</a>         | ➡            | 上昇一服で下押し局面入りか<br>予想レンジ: 62.90 ~ 66.40 円    | 4 - 5 |
| <a href="#">ランド/円</a>          | ➡            | GDPの上ブレを受けて堅調推移か<br>予想レンジ: 11.70 ~ 12.10 円 | 6 - 7 |
| <a href="#">経済指標<br/>カレンダー</a> | 一週間の予定を一覧で表示 |  | 8 - 9 |

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# AUD/JPY

## 豪ドル/円 5/30~6/3の主な推移



|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <p><b>5/31</b><br/>Tuesday</p>  | <p>早朝、米ウォールストリートジャーナル紙が「ドイツはギリシャ国債債務の早期再編要求の撤回を検討」と報じた。これによりギリシャの債務再編観測が後退し、時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、豪ドル/円は上昇した(①)。格付け会社ムーディーズが、日本の格付けを「Aa2」から引き下げ方向で見直すを発表した。これを受け円売りが強まると、豪ドル/円は87.40円まで続伸(②)。しかしその後、予想を下回る米経済指標が相次ぎ、NYダウ平均が上げ幅を縮小すると、豪ドル/円は86.47円まで下落した(③)。</p> |
| <p><b>6/1</b><br/>Wednesday</p> | <p>豪第1四半期国内総生産(GDP)の前年比は+1.0%と市場予想と一致。前期比は-1.2%と予想(-1.1%)に近い数値となり、発表後は悪材料出尽くしとの見方から、豪ドル/円は上昇。その後、本邦にて内閣不信任案が提出されるとの思惑から、政治的混乱を嫌気した円売りにより、豪ドル/円は87.59円まで上昇した(④)。だが相次ぐ予想を下回る米経済指標を受けて米株が下落し、ギリシャの格下げ報道も重なると、リスク回避の動きが強まり豪ドル/円は下落。</p>                          |
| <p><b>6/2</b><br/>Thursday</p>  | <p>豪4月貿易収支は15.97億豪ドルの黒字と予想(20.00億豪ドルの黒字)を下回るも、豪4月小売売上高が前月比+1.1%と予想(+0.4%)を上回ったことが材料視され、豪ドル/円は反発した(⑤)。</p>  |
| <p><b>6/3</b><br/>Friday</p>    | <p>米5月失業率は9.1%、非農業部門雇用者数も5.4万人増と、いずれも予想(8.9%、16.5万人増)より弱い結果となり、ドル/円が急落すると、豪ドル/円も84.96円の安値をつけた。だがその後、米5月ISM非製造景況指数が予想を上回ると、ドル/円の反発に連れて豪ドル/円も反発した(⑥)。</p>  |

### 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

### 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## AUD/JPY

## 今週の見通し

今週7日、豪準備銀行(RBA)キャシュターゲットが予定されている。エコノミスト予想では政策金利の据え置き予想がコンセンサスとなっており、市場の関心は政策金利よりも同時に発表される声明文に関心が集まりそうだ。もし、声明文に近い将来の利上げを示唆する内容が含まれる場合、豪ドル/円はRBAの早期利上げ期待を織り込む形で買われる可能性がある。

また9日には豪5月雇用統計の発表も予定されている。本稿執筆時点の市場予想は、失業率は前月と同じ4.9%となっている。また雇用者数変化は2.50万人増が予想されているものの、仮に予想を下回る場合、市場では雇用が減少しているとの見方につながる可能性があり、豪ドルは売り優勢となることも考えられる。ただ、雇用者数変化が予想を上回り、かつ、常勤雇用者を中心に予想を上回る雇用増が示される場合、豪ドル/円が買われる展開も予想される。(川畑)

(予想レンジ: 84.30~87.60 円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●AUD/JPY 6/3週足引値:86.01円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は3日には一時、5/13安値(84.88円)に面合わせとなる84.96円まで下落し、26週線(6/3時点では84.52円)に接近する場面が見られた。昨年5月の急落以降、26週線が攻防の分岐点として機能している様子であり、仮にローソク足が同線を下抜ける場合、相場は下落トレンドに向かう可能性がある。

ボリンジャーバンドは6/3現在、上限:87.53円~下限:85.40円と、上下のバンド幅は収縮傾向から横ばいへと変化。先月以降、相場は概ね84円前半から87円半ばでのレンジを形成しており、上下どちらか抜けた方に次の相場の方向感が出る事が予想される。

移動平均は20日線(6/3時点では86.47円)が抵抗となり、上値が重い。仮に20日線が60日線(同、86.05円)を下抜けるようだと、相場は下落トレンド入りの可能性も考えられる。

上値ポイントは①引値レベルで86.53円(20日線)、②87.59円(6/1高値)、③88.09円(5/11高値)であり、下値ポイントは①引値レベルで85.66円(6/3の下ヒゲ1.05円の1/3戻し)、②84.96円(6/3安値)、③84.30円(5/5安値)~84.52円(26週線)である。(川畑)

## NZD/JPY

## NZドル/円 5/30～6/3の主な推移



|                         |  |
|-------------------------|--|
| <b>5/30</b><br>Monday   | NZ4月貿易収支は11.13億ドルの黒字と予想(6.00億NZドルの黒字)を上回り、単月では過去最大の黒字幅を記録。これを受け、NZドル/円はその後66.43円まで上昇した(①)。   |
| <b>5/31</b><br>Tuesday  | 早朝、米ウォールストリートジャーナル紙が「ドイツはギリシャ国債債務の早期再編要求の撤回を検討」と報じた。これによりギリシャの債務再編観測が後退し、時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、NZドル/円は上昇した(②)。格付け会社ムーディーズが、日本の格付けを「Aa2」から引き下げ方向で見直すを発表した。これを受け円売りが強まると、NZドル/円は昨年5月以来となる67.41円まで続伸(③)。しかしその後、予想を下回る米経済指標が相次ぎ、NYダウ平均が上げ幅を縮小すると、NZドル/円は66.69円まで下落した。 |
| <b>6/1</b><br>Wednesday | 本邦にて内閣不信任案が提出されるとの思惑から、政治的混乱を嫌気した円売りにより、NZドル/円は67.20円まで上昇した(④)。しかし相次ぐ予想を下回る米経済指標を受けて米株が下落し、ギリシャの格下げ報道も重なると、リスク回避の動きが強まりNZドル/円は下落(⑤)。   |
| <b>6/3</b><br>Friday    | NZ4月住宅許可件数は前月比-1.6%と予想(+0.5%)を下回り、NZドル/円はじり安となった(⑥)。米5月失業率は9.1%、非農業部門雇用者数も5.4万人増と、いずれも予想(8.9%、16.5万人増)より弱い結果となり、ドル/円が急落するとNZドル/円も64.72円の安値をつけた(⑦)。だがその後、米5月ISM非製造景況指数が予想を上回ると、ドル/円の反発に連れてNZドル/円は米雇用統計発表前の水準に値を戻した。   |

## 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## 今週の見通し

今週9日早朝、NZ準備銀行(RBNZ)オフィシャル・キャッシュレイトが予定されている。エコノミスト予想では、今回は政策金利の据え置きがコンセンサスとなっており、市場の関心は政策金利よりも同時に発表される声明文に関心が集まると見られる。なお現時点でのエコノミスト予想では、年内の利上げ再開を予想する声は少ないものの、仮に声明にて年内の利上げ観測を示唆する内容が盛り込まれる場合、NZドル/円は買い優勢となる場面も予想される。

ただ、先週3日に発表された米5月雇用統計は事前予想より弱い結果となり、市場では米経済の停滞観測が強まっている。このことが米株や商品相場の下落につながる場合、約1年ぶりとなる高値圏に位置しているNZドル/円には調整圧力が加わる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:62.90~66.40円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 6/3週足引値66.01円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は5/31に67.41円まで上昇し、昨年5月以来の高水準に達した。しかしバンド上限に押し戻される形で、その後20日線に向けた下押しが見られた。今週は20日線を巡る攻防がポイントと見られ、同線とバンド上限での往来相場が継続するか、それとも同線とバンド下限とのレンジ形成に向かうのか注目したい。

ボリンジャーバンドは6/3現在、上限:67.08円~下限:62.81円と、バンド幅はほぼ横ばい。もしローソク足がバンド上下を押し広げられないようだと、バンド幅を超えた値動きは一時的となる可能性もある。

移動平均は20日線(6/3時点では64.94円)がほぼ横ばいへと変化しており、下値を支えられるか注目したい。また、その下の200日線(同、62.73円)はわずかに上向きのため、一旦は下値を支えるものと見られる。

上値ポイントは①66.38円(6/2高値)、②67.08円(バンド上限)、③67.41円(5/31高値)であり、下値ポイントは①引値レベルで64.94円(20日線)、②62.89円(200日線)、③62.54円(5/5安値)である。(川畑)

## ZAR/JPY

## ランド/円 5/30~6/3の主な推移



**5/31**  
Tuesday

早朝、米ウォールストリートジャーナル紙が「ドイツはギリシャ国債債務の早期再編要求の撤回を検討」と報じた。これによりギリシャの債務再編観測が後退し、時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、ランド/円は上昇した(①)。格付け会社ムーディーズが、日本の格付けを「Aa2」から引き下げ方向で見直すを発表した。これを受け円売りが強まり、ランド/円は上昇した。また18時30分に発表された南アフリカ第1四半期国内総生産(GDP)は前年比+4.8%と、予想(+4.2%)や前回(+4.4%)を上回った。発表直後の市場の反応は薄かったものの、その後ランドは対ドルで上昇が続いたことから、ランド/円もじり高で推移した(②)。

**6/1**  
Wednesday

欧州序盤、本邦にて内閣不信任案が提出されるとの思惑から、政治的混乱を嫌気した円売りが出た。加えて前日31日に南アの最高裁判所が、米小売り大手ウォルマートによる南ア小売大手マスマートの買収を承認する判決を出したことを手掛かりに、ランドが買われた。これらが重なり、ランド/円は一時12.00円まで上昇した(③)。

**6/2**  
Thursday

原油相場の急反発や、NYダウ平均が下げ幅を圧縮したことを手掛かりに、ランド/円は引続間際に一時12.03円まで上昇した(④)。

**6/3**  
Friday

米5月失業率は9.1%、非農業部門雇用者数も5.4万人増と、いずれも予想(8.9%、16.5万人増)より弱い結果となり、ドル/円が急落するとランド/円も11.83円まで下落(⑤)。だが、その後米5月ISM非製造景況指数が予想を上回ると、ドル/円の反発に連れてランド/円も反発。

## 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今週の見通し

先週31日、南アフリカで発表された第1四半期GDPが昨年第1四半期以来の水準に上昇したことで、その後ランド/円はじり高で推移した。今週、南アフリカでは主だった経済指標の発表が予定されていないものの、ランド/円は先週のGDPの好結果を受けて底堅い推移が予想される。

ただ、先週3日に発表された米5月雇用統計は事前予想より弱い結果となり、市場では米経済の停滞観測が強まっている。このことが米株や商品相場の下落につながる場合、ランド/円には一時的に下げ圧力が掛かる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:11.70~12.10円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕  
 20日線 60日線 200日線  
 〔ボリンジャーバンド〕  
 +2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 6/3週足引値:11.65円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は5/31に20日線を突破後、同線を下値に6/2には12.03円まで上昇した。ただ上値はバンド上限に押さえられており、相場は20日線とバンド上限とのレンジを形成しつつあり、今週はローソク足がどちらを突破するのか注目したい。

ボリンジャーバンドは6/3現在、上限12.03円～下限:11.48円と、バンド幅はほぼ横ばい。目先の相場は方向感が薄いと見られ、ローソク足がバンド上下を押し広げる動きとならない場合、バンド上下を超えた値動きは一時的となる可能性がある。

移動平均は20日線(6/3時点では11.76円)が60日線(同、11.98円)や200日線(同、11.88円)を下抜けてはいるが、いずれも横ばいとなり、先週より下押し圧力は後退している模様。目先は20日線の強度が試されよう。

上値ポイントは①12.03円(6/2高値&バンド上限)、②12.10円(5/6高値)、③12.21円(バンド上限)であり、下値ポイントは①11.76円(20日線)、②11.59円(5/25安値)、③11.48円(バンド下限)である(川畑)

## 経済指標カレンダー (6/6~9)

| 日付  | 時刻    | 注目度 | 経済指標、イベント等                 | 前回           | 予想         |
|-----|-------|-----|----------------------------|--------------|------------|
| 6/6 | —     |     | 香港休場(端午節)、ウェリントン休場(女王誕生日)  |              |            |
| (月) | 18:00 |     | (ユーロ圏) 4月生産者物価指数 [前年比]     | +6.7%        | +6.7%      |
|     | 21:30 |     | (加) 4月住宅建設許可 [前月比]         | +17.2%       | —          |
|     | 23:00 | ○   | (加) 5月Ivey購買部協会指数          | 57.7         | —          |
| 6/7 | 13:30 | ◎   | (豪) RBAキャッシュターゲット          | 4.75%        | —          |
| (火) | 14:00 |     | (日) 4月景気動向指数・速報 [先行CI指数]   | 100.1        | 96.5       |
|     |       |     | (日) 4月景気動向指数・速報 [一致CI指数]   | 103.5        | 103.7      |
|     | 18:00 | ○   | (ユーロ圏) 4月小売売上高 [前月比]       | -1.0%(-0.9%) | +0.3%      |
|     |       | ○   | (ユーロ圏) 4月小売売上高 [前年比]       | -1.7%        | +0.1%      |
|     | 19:00 |     | (独) 4月製造業受注 [前月比]          | -4.0%        | -2.1%      |
|     | 26:00 |     | (米) 3年債入札(320億ドル)          | —            | —          |
|     | 28:00 |     | (米) 4月消費者信用残高              | +60.16億USD   | +50.00億USD |
| 6/8 | 08:50 |     | (日) 4月貿易収支                 | 2403億円       | -3732億円    |
| (水) | 14:00 |     | (日) 5月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]  | 28.3         | —          |
|     |       |     | (日) 5月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI] | 38.4         | —          |
|     | 15:00 |     | (独) 4月貿易収支                 | +189億EUR     | +143億EUR   |
|     | 18:00 |     | (ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]  | +0.8%        | +0.8%      |
|     |       |     | (ユーロ圏) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]  | +2.5%        | +2.5%      |
|     | 19:00 | ○   | (独) 4月鉱工業生産 [前月比]          | +0.7%        | +0.2%      |
|     | 21:15 |     | (加) 5月住宅着工件数               | 17.9万件       | 18.35万件    |
|     | 26:00 | ○   | (米) 10年債入札(210億ドル)         | —            | —          |
|     | 27:00 | ○   | (米) 米地区連銀経済報告(ページブック)      | —            | —          |
| 6/9 | 06:00 | ◎   | (NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレート   | 2.50%        | —          |
| (木) | 08:50 |     | (日) 第1四半期GDP・二次速報 [前期比]    | -0.9%        | -0.8%      |
|     |       |     | (日) 第1四半期GDP・二次速報 [前期比年率]  | -3.7%        | -3.0%      |
|     | 10:30 | ◎   | (豪) 5月新規雇用者数               | -2.21万人      | —          |
|     | 10:30 | ◎   | (豪) 5月失業率                  | 4.9%         | —          |
|     | 17:30 |     | (英) 4月商品貿易収支               | -76.60億GBP   | -75.50億GBP |
|     | 20:00 | ◎   | (英) BOE政策金利発表              | 0.50%        | —          |
|     | 20:45 | ◎   | (ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表          | 1.25%        | —          |
|     | 21:30 | ◎   | (米) 6/4までの週の新規失業保険申請件数     | 42.2万件       | —          |
|     | 21:30 | ○   | (米) 4月貿易収支                 | -482億USD     | -486億USD   |
|     | 21:30 |     | (加) 4月国際商品貿易               | +6億CAD       | +3億CAD     |
|     | 21:30 |     | (加) 4月新築住宅価格指数 [前月比]       | ±0.0%        | —          |
|     | 23:00 |     | (米) 4月卸売在庫 [前月比]           | +1.1%        | +1.0%      |
|     | 26:00 | ○   | (米) 30年債入札(130億ドル)         | —            | —          |

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## 経済指標カレンダー (6/10)

| 日付          | 時刻    | 注目度 | 経済指標、イベント等             | 前回       | 予想        |
|-------------|-------|-----|------------------------|----------|-----------|
| 6/10<br>(金) | 15:00 |     | (独) 5月消費者物価指数・確報 [前月比] | ±0.0%    | ±0.0%     |
|             |       |     | (独) 5月消費者物価指数・確報 [前年比] | +2.3%    | +2.3%     |
|             | 17:30 | ○   | (英) 4月鉱工業生産 [前月比]      | +0.2%    | ±0.0%     |
|             | 17:30 |     | (英) 4月製造業生産高 [前月比]     | +0.2%    | +0.1%     |
|             | 17:30 |     | (英) 5月生産者物価指数 [コア:前年比] | +3.4%    | +3.5%     |
|             | 20:00 | ○   | (加) 5月雇用ネット変化          | 58.3万人   | 25.0万人    |
|             | 20:00 | ○   | (加) 5月失業率              | 7.6%     | 7.6%      |
|             | 21:30 |     | (加) 第1四半期労働生産率 [前期比]   | +0.5%    | —         |
|             | 21:30 |     | (米) 5月輸入物価指数 [前月比]     | +2.2%    | -0.7%     |
|             | 27:00 |     | (米) 5月月次財政収支           | -827億USD | -1600億USD |

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。